

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしい生活」「第二の我が家」の理念に基づき社会との接点を保とうと考えている。	企業理念と介護理念と2つの理念を職員のよく見える場所に掲示している。職員に日頃の業務において確認してもらい、理念の共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者には出来るだけ外出をしてもらい地域の方々に理解していただくよう努力している。	積極的な交流というまでにはいかないようであるが、一斉清掃や祭りなど地域の行事に参加している。	地域との交流活動にはなかなか手がまわらないようだが、町内会や老人クラブや家族など、地域の人々の協力を得て、交流の機会を増やしてほしい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩や近くのスーパーへ買い物等を実践する事で地域の人々には理解して頂けていると考える。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回、定着して実施できている。参加者はどうしても決まってはいるが、参加された方々との意見交換は出来ていると思う。	定期的に運営推進会議を開催している。町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員など、参加した地域の人に職員が撮った事業所のVTRを見てもらい、サービス活動の理解を深めてもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括センターとの連絡も取りつつ協力関係を築く努力はしている。	職員が市町村の主宰する研修に参加している。管理者が調整に当たり、研修の内容については職員に伝達講習している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の安全を考えると玄関施錠はやむを得ず、その他の身体拘束はしないケアに取り組んでいる。	普段、玄関は安全のために施錠している。買い物や散歩など、外出を希望する入居者には職員が随行している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉の虐待等についても日頃の申し送りや、勉強会等で話し合い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者には成年後見人制度を利用されている方もおり必要に応じて活用させていただいている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族と必ず話し合いの場を設け、十分説明をし、理解と納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	情報交換ノートを作成しており、これを活用して、家族からの意見も自由に記入して頂いている。	家族会を設けており、常時5～6人の参加がある。情報交換ノートにより、家族の要望・意見を積極的に伺うようにしている。月に1回広報誌を発行し、家族に送っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回職員会議、リーダー会議等で意見交換をしている。	2ヶ月に一度幹部会を、1ヶ月に一度職員会議を開き、職員の意見を求めている。食事・薬剤・企画・美化などの係りを決めており、其々の担当職員から協力依頼がある。また、連絡ノートを活用して、職員の意見等を反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	条件をそれぞれ聞いて下さり、働きやすい職場になっていると思う。職員の入れ替わりが減った。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に声掛けをし、職員の気持ち等を聞きだす努力をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	必要に応じ勉強会やセミナー等に参加することで質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントをした上で本人とどう関わるのがいいのか上司に相談しつつ職員全員でケアにたずさわっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困ったことや、お願いする事等、家族へ連絡をさせてもらっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期でケアプランを作成し、職員にも必ず実施してもらうようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることはしていただくように心掛け、スタッフが全てするのではなく、ご本人にもお願いする生活を送るようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の理解を得る為に連絡を密に取るようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所の時、今まで本人が使っていた家具や身の回りのものを居室に置くことで安心して過ごして頂けるようにしている。	馴染みの友達などの訪問を職員が快く迎え、入居者と歓談してもらっている。入居者は社会生活を継続し、居心地よく過ごしているようである。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活を共に過ごす中、関わり合う時間も作る事で利用者同士の関係も良くなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も情報交換をしていこうとは思っているが、入院中などは関係者以外には教えてくれず、ある程度の期間が過ぎると関わりが無くなるのが現状である。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ユニット9人をひとまとめにはせず、利用者一人ひとりに合わせたケアを心掛けている。	職員は、入居者が何かをするとき、入居者自ら行動を起こす気持ちになるまで待つようにしており、入居者一人ひとりに合わせたケアを心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居室内の環境に今まで家で使われていた家具等を持って来ていただき、自分の部屋と認識してもらうようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、その方に合わせた日課を考え過ぎていただくように努めている。無理強いすることがないように注意している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	半年に1回は見直しを行い、介護度変更の時には半年にならなくても見直しを行う。	日々の記録や申し送りノートを参照し、家族の意見を聞いたり、入居者の思いを把握しながら、職員同士で話し合い、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録は大切に保管し、日々変わったことや言動等常に記録に残すようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の理解や協力が大切なので情報は常にご家族に入れるようにし、理解と協力を得てのケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームの周りに田んぼ等があり、季節を感じる事が出来るので散歩をするなど気分転換を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診して下さるお医者さんにも情報交換を蜜に行い協力を得て助かっている部分が大である。	週1回、協力医に往診してもらっている。また、本人の希望するかかりつけ医においては、家族の支援の基、受けてもらっている。緊急の時にも対応できる体制を整えている。	職員や家族に薬の知識や服薬の注意事項を再度確認してもらうために、運営推進会議などの場を活用して、薬剤師に協力してもらい、研修を企画してはどうか。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護等のサービスはしていない。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医の協力を得て入院等がスムーズにできており病院でもソーシャルワーカーと常に連絡を取り合うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	特養等の申込みを早い段階でして頂き、ターミナルケアはしていない。	主治医の判断で、医療的な措置が必要になった場合は、家族と十分話し合い、事業所のできることを説明し、方針を共有している。特養や医療機関への転入を勧めることもある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ヒヤリハット等を提出しスタッフにも考えてもらうようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練も定期的に実行している。	避難訓練には入居者も参加して、定期的に行っている。また、職員で協力し合い、入居者をシートでくるんで階下へ運ぶ訓練をしたり、職員全員に消防署員の話聞いてもらい、災害時の心構えを身につけてもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に丁寧な言葉とはいえないが、時に方言等も入り、親しみやすい言葉かけもできていると思う。	散歩への誘いなど、職員は入居者一人ひとりの気持ちに充分気を配り、親しみやすい言葉をかけている。強制しない介護支援に徹している。	日常業務に追われ大変だと思うが、入居者一人ひとりへもう少し手厚く対応できる体制がとれると良いと思う。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何か行動をする時は本人さんの意思を大切にし、声掛け確認をするようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホームの特徴でもある、その人にあった生活リズムを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪等もその人にあった髪型にしてくださっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週に1回は利用者さんの好みでもあるお寿司をメニューに入れることで喜んで頂いている。	じっと黙って待っている入居者もいるが、職員と一緒に利用者自ら進んで食事を一緒に作ったり、食後の食器洗いを手伝ったりする方もいる。	入居者の性格も其々であるが、楽しい食事への期待感をさらに高めるため、職員が入居者と会話する時間ももっとあれば良いと思う。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主食の量を利用者さんの持病等を考慮し調節をしている。おかわりも自由(食べすぎに注意している)。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後声掛けや誘導で口腔ケア実施。1週間に1回義歯洗浄剤使用。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりにあつた対応、日中普通パンツ使用、トレーニングパンツ使用で、安易にリハビリパンツを使用しないようにしている。	日中は普通パンツかトレーニングパンツを使用し、夜はリハビリパンツを着用している。入居者一人ひとりの排泄のパターンに合わせた支援をしている。トイレは3か所あり、自立した利用者には使い易い設計になっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を十分に取り入れ主治医の指導の元、下剤を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそつた支援をしている	利用者によっては、夕ご飯の後、入浴したい方がいらっしゃるが、昼食後の入浴にしている。週に2回は入浴して頂いている。	週2回の入浴を原則としているが、入居者の希望に応じ、入浴を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者に気持ちを任せ、日中でも昼休みをしたい方は自由にご自分の部屋に戻らせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用法、目的等薬局からの処方に目が通せるようにしている。薬については常に主治医と相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の下ごしらえや小皿に分けたりする事等、できることは利用者に合わせてして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩や買い物へ誘い外へ出来る限り行ってもらうようにしている。地域の行事にも出来るだけ参加して頂いている。	近所のスーパーに職員と一緒に歩いてよく買い物に出かけている。また、地域行事への参加や、散歩などにも職員と一緒に出かけている。	職員数との関わりもあり、外出支援できる人数は限られてくるが、もう少し外出の機会を増やせないか検討してほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の中には少しのお金を手元においていらっしゃる方もいるが基本的にはこちらの管理としている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由にして頂いている。 手紙を書かれる方もいらっしゃる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間で利用者に不快や混乱をまねくことは無いと思う。	入居者は共用空間で手仕事等をしながら、安心して過ごしている。職員と利用者で協力して作った季節感あふれる図画を壁に飾ることで、居心地良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	時にソファでゆっくり過ごして下さいっている。 日光浴のため外にベンチを置いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔使っていた家具を持って来て頂いたり、リビングや外でもゆっくと快適に過ごして頂ける様、ソファを置いたり、ベンチを置いたりしている。	居室には、これまで使用していた家具や家族の写真等が持ち込まれており、入居者各々居心地よく過ごしているようである。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ等も3ヶ所ある為利用者はかち合うこともない。歩行を妨げることのないよう通路に物を置かないようにしている。		